



勉強会
「60代6000人の声」アンケート調査結果

合同会社フィンウェル研究所

代表 野尻哲史

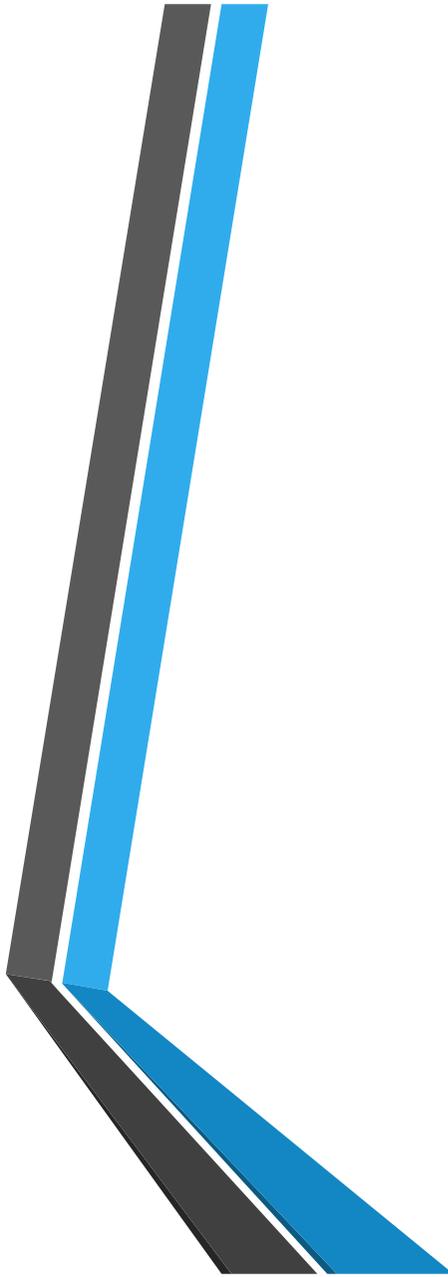
2022年3月23日

アンケート調査概要とレポートの特徴

2019年、2021年に続いて2022年も60代をターゲットとしたアンケート調査を実施。全2回の地方都市移住にフォーカスした調査を踏まえて、今回は3大都市圏、100万人以上の都市、30万人以上の都市の3つの区分からそれぞれ2000人強の回答を得て、移住のみならず、現在の居住地での生活の満足度、住んでいる都市の評価などを聞いた。

2022年60代6000人アンケート調査概要		
調査実施時期	2022年1月31日～2月3日	
調査対象	60-69歳6486人（男性4804人、女性1682人）	
居住地	3大都市圏2131人、100万人以上都市2175人、30万人以上都市2180人	
移住した人	過去10年以内に移住440人（3大都市から67人、それ以外の都市から373人）	
世帯資産	平均2695.8万円、中央値1001-1500万円	
生活全般に対する満足度（満足5点-不満足1点）	平均3.17点（健康状態3.30点、仕事・やりがい3.20点、人間関係3.51点、資産水準2.80点）	
過去のアンケート調査概要		
調査実施時期	2019年11月	2021年3月
調査対象	60-69歳2128人（男1627人、女501人）	60-69歳2305人（男1646人、女659人）
以前、3大都市に住んでいて現在、地方都市に移住した	306人（男238人、女68人）	269人（男195人、女74人）
現在、3大都市に住んでいて地方都市移住を検討中	536人（男440人、女96人）	179人（男149人、女30人）
現在、3大都市に住んでいて地方都市移住を検討したが諦めた	586人（男456人、女130人）	222人（男177人、女45人）
現在、3大都市に住んでいて地方都市移住を考えたことがない	700人（男493人、女207人）	1635人（男1125人、女510人）

3大都市は東京・大阪・名古屋、100万人以上都市は札幌、仙台、さいたま、横浜、京都、神戸、広島、福岡、30-100万未満都市は秋田、宇都宮、前橋、千葉、新潟、富山、金沢、長野、岐阜、静岡、大津、奈良、和歌山、岡山、高松、松山、高知、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、那覇



60代、資産寿命は心配ないか？

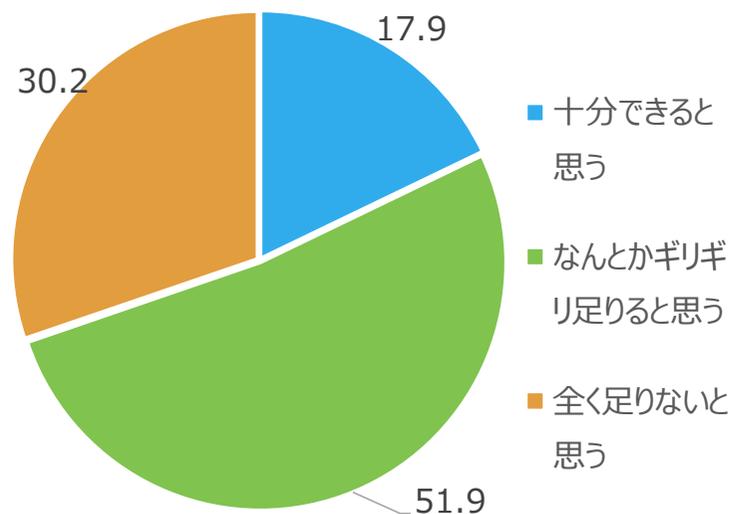
アンケート結果のまとめ

- 7割の人が保有資産で寿命まで何とかカバーできると回答。保有資産500万円以下でも4割が何とかなるとみている。
- 金融資産は平均2700万円で、ばらつきが大きい。年間生活費は平均370万円弱で、ばらつきが小さい。ばらつきが大きい保有資産で、ばらつきの小さい生活費を賄うとすれば、資産寿命に関する評価もばらつきが大きくなるはず。
- 7割が資産寿命はなんとになると回答しているが、**楽観的すぎないだろうか。**
- 資産寿命延命策は、3割が生活費の削減を挙げるが、5割が最大の支出とみている食費を削減することに。**それは可能だろうかと懐疑的になる。**
- 退職後の生活費 = 年金収入 + 勤労収入 + 資産収入とすると、長く働くための工夫は3分の1に留まり、多くの人(6割)が年金受給までのつなぎ的な見方をしているようだ。
- 資産運用は4割の人が行っているが、資産の延命策として挙げた人は2割に届かない。資産収入は、60代前半では勤労収入と、後半では年金収入との合わせ技に使われている。

資産寿命の評価 – 7割が何とかなると考えている

- 十分足りると考える人が18%、なんとかぎりぎり足りると考える人が52%で、合計7割の60代が資産寿命はなんとかなると考えている。

保有している資産(金融資産や不動産)で自分の寿命をカバーできるか (単位：人、%)



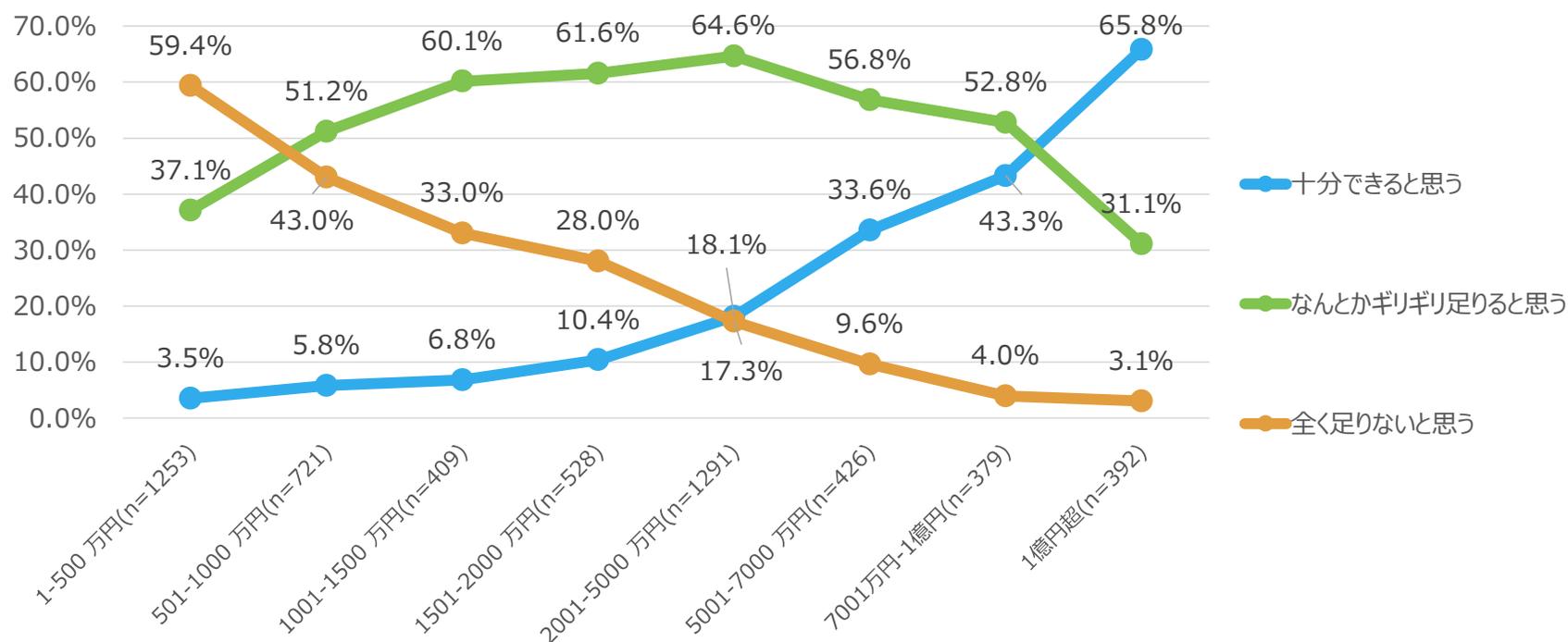
(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

資産寿命の評価 – 2000万円超の保有資産で安心できる水準か

- 保有資産が多いほど寿命をカバーできると思う傾向が強い。「まったく足りない」とする構成比が全体平均（30.2%）を下回るのが1500万円超。「十分できる」の評価が「まったく足りない」を上回るのが2000万円超。

保有資産額(金融資産や不動産)別にみた「自分の寿命をカバーできるか」

(単位：%)



(注) 保有資産があると回答した5399人が対象。(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年
All rights reserved ©FinWell Research LLC, 2022

60代の資産(金融資産と不動産)ー平均2700万円、3分の1が500万円未満

- 保有資産の平均額、分布ともに年齢、職業で大きな差ないが、住んでいる都市の規模によって1000万円ほどの差が出ている。

世帯金融資産の分布

(単位：人、%、万円)

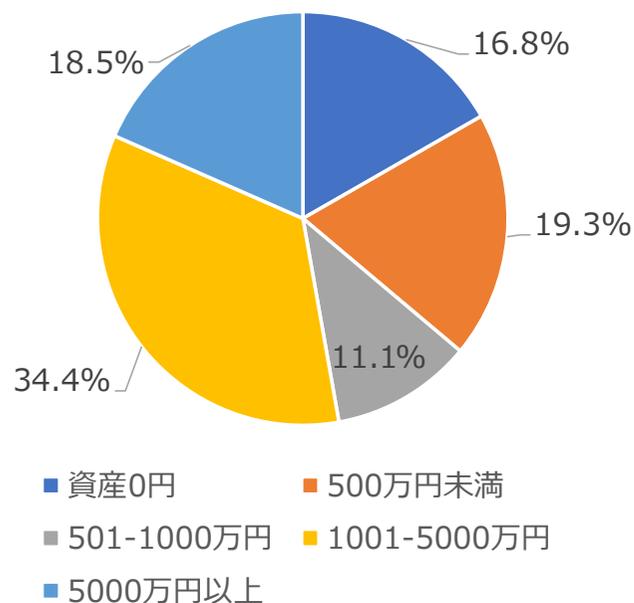
		回答者数	世帯資産					平均値
			資産0円	500万円未満	501-1000万円	1001-5000万円	5000万円以上	
全体		6486	16.8	19.3	11.1	34.4	18.5	2695.84
年齢	60~64歳	3752	16.6	20.2	11.4	34.0	17.8	2646.59
	65~69歳	2734	17.0	18.1	10.8	34.9	19.3	2763.44
職業	会社員等	1933	14.3	19.3	12.4	34.4	19.6	2840.40
	自営業等	773	21.0	23.5	11.0	25.2	19.3	2682.41
	無職(以前、会社員等)	1273	12.7	18.6	10.5	39.5	18.6	2796.54
	無職(以前、自営業等)	1194	20.9	16.7	10.6	33.8	18.0	2623.12
	専業主婦/主夫	1221	17.5	19.7	10.2	35.6	17.0	2500.00
居住地	3大都市	2131	17.2	17.8	9.2	30.8	25.1	3300.45
	人口100万人以上	2175	16.9	18.8	11.9	35.4	17.1	2561.15
	人口30-100万人未満	2180	16.2	21.3	12.3	36.8	13.3	2239.22

(注) 会社員等は会社員・会社役員・公務員・団体職員等、自営業者等は自営業・自由業・個人事業主等、無職には嘱託・契約社員、パート・アルバイトなどを含む、専業主婦/主夫はパート・アルバイトを含む。居住地はすべて県庁所在都市。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

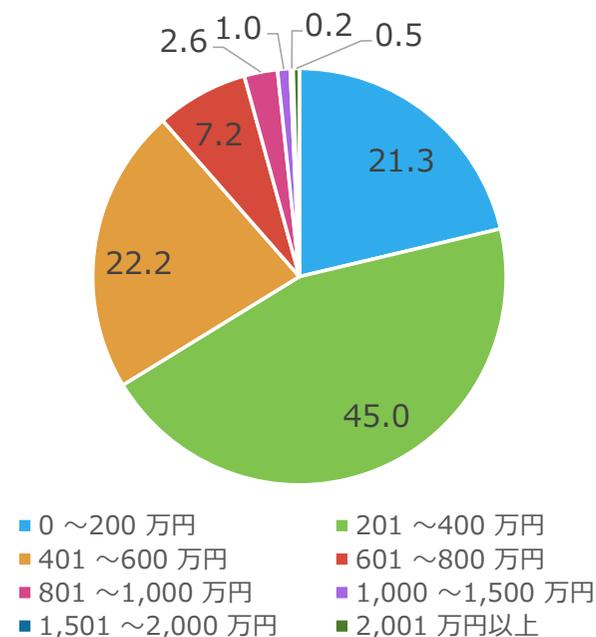
60代の保有資産は平均2700万円、年間生活費は平均368.7万円

- 平均資産額は2700万円で、ばらつきが大きい。500万円未満層が3分の1、5000万円以上層が2割弱。
- 年間生活費は368.7万円で、201-400万円が45%、600万円以下で9割を占め、ばらつきは大きくない。

保有資産額の分布 (単位：%)



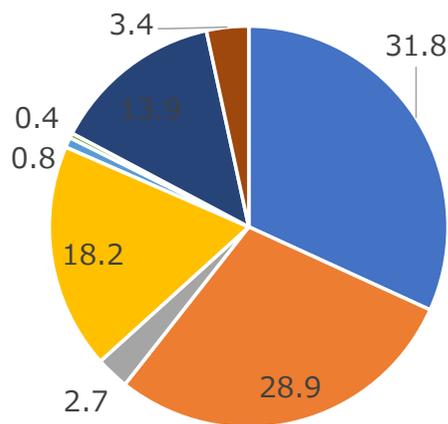
年間生活費の分布 (単位：%)



(注) 会社員等は会社員・会社役員・公務員・団体職員等、自営業者等は自営業・自由業・個人事業主等、無職には嘱託・契約社員、パート・アルバイトなどを含む、専業主婦/主夫はパート・アルバイトを含む。居住都市はすべて県庁所在都市。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

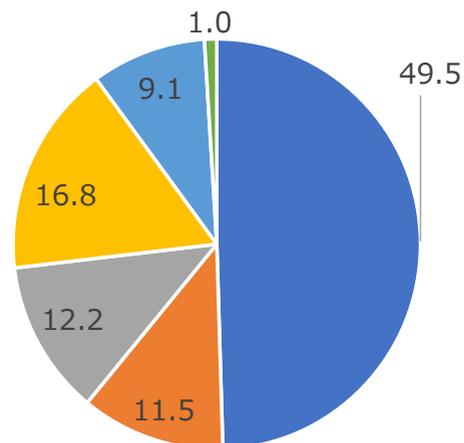
資産寿命の延命策 – 生活費の切り詰めは食費を減らすしかない？！

資産寿命の延命策は何か
N=5399 (単位：%)



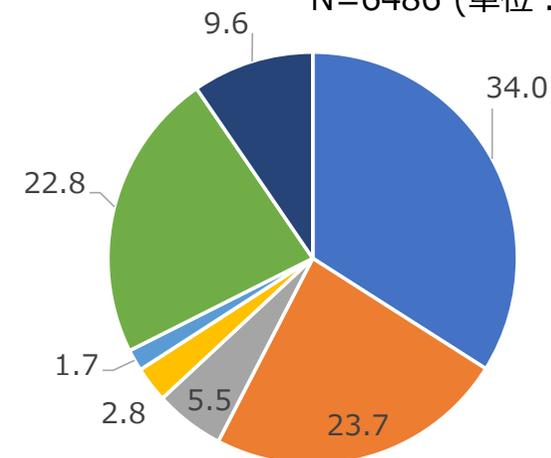
- 生活費を切り詰めて支出を抑える
- 少しでも長く働いて収入を得る
- 少しでも金利の高い金融機関に預け替える
- 持っている資産を株・債券・投資信託などで運用することを考える
- 遺産などを当てにする
- その他
- 金融資産の延命策は特に考えていない
- この中にはない

退職後の生活の最大の支出は何か
N=6486 (単位：%)



- 食費
- 医療費（介護費などを含む）
- 税金、社会保険料
- 家賃・住居費
- 旅行や趣味などの楽しみに使う費用
- その他

生活費削減に貢献する施策は何か
N=6486 (単位：%)



- 食費を切り詰める
- 健康増進を図って将来の医療費を抑える
- 家の住み替え等住居費のダウンサイジング
- 生活費の安い地方都市などに移住する
- その他

(注) 資産寿命の延命策は資産を保有していると回答した人が対象 (出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

最も頼りになる収入－7割が公的年金

□ 勤労収入が見込めなくなったら年金収入へ依存する補完関係

定年退職後の最も頼りになる収入は？

(単位：人、%)

		回答者数	公的年金	勤労収入	資産収入	家賃・不動産収入			回答者数	公的年金	勤労収入	資産収入	家賃・不動産収入
全体		6486	69.4	14.0	8.0	3.1							
年齢	60-64歳	3752	63.1	17.0	10.0	3.3	職業	会社員等	1933	66.8	19.1	8.4	3.0
	65-69歳	2734	78.1	9.9	5.4	2.9		自営業者等	773	48.4	22.9	9.4	9.1
								無職(元会社員等)	1273	73.5	16.3	6.9	1.3
保有資産	資産無し	1087	70.0	15.8	1.8	0.5	勤労継続希望年齢	無職(元自営業等)	1194	77.6	3.9	8.9	2.8
	1-500万円	1253	73.6	17.8	2.2	1.4		専業主婦/主夫	1221	74.9	8.1	7.0	1.9
	501-1000万円	721	74.8	15.4	4.2	1.5		60-64歳	261	75.1	7.3	10.7	3.1
	1001-1500万円	409	74.3	14.2	6.1	2.7		65歳	1226	70.1	15.7	7.9	2.4
	1501-2000万円	528	74.4	13.4	5.7	2.5		66-69歳	412	69.9	18.0	6.1	2.4
	2001-5000万円	1291	71.0	12.7	9.3	3.1		70歳	1407	61.2	24.1	7.2	3.8
	5001-7000万円	426	67.1	10.6	16.0	3.3		71-74歳	94	61.7	34.0	1.1	-
	7001-1億円	379	60.7	9.2	20.1	5.5		75歳	427	45.0	35.1	10.1	4.9
	1億円超	392	38.5	7.9	31.9	17.9		76歳以上	174	36.8	28.2	10.9	12.6
	公的年金	受給	3504	76.3	11.5	5.7		2.9	勤労収入なし	2485	79.8	2.2	8.3
	未受給	2982	61.3	17.0	10.8	3.4							

(注) ハイライトは全体値より高いところ。会社員等は会社員・会社役員・公務員・団体職員等、自営業者等は自営業・自由業・個人事業主等、無職には嘱託・契約社員、パート・アルバイトなどを含む、専業主婦/主夫はパート・アルバイトを含む。出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

公的年金 – 未受給者の7割が65歳受給希望

- 60代6486人の回答者のうち、54.0%が公的年金を受給している。62歳から受給者が増加。
- 受給開始(開始予定)年齢の分布では、5割が65歳、4割弱が64歳以前。繰下げ受給は1割強。

公的年金受給の年齢別分布

(単位：人)

		総数	実年齢									
			60歳	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳	66歳	67歳	68歳	69歳
全体		6486	785	806	763	749	649	658	553	566	490	467
公的年金の 受け取り	受け取っている	3504	25	70	156	376	411	547	497	507	463	452
	受け取っていない	2982	760	736	607	373	238	111	56	59	27	15

公的年金未受給者の受給開始予定年齢・公的年金受給者の受給開始年齢分布

(単位：人、%)

		総数	64歳以下	65歳	66-69歳	70歳	71-74歳	75歳
公的年金未受給者	人数	2982	72	2175	180	482	4	69
	構成比	100.0	2.4	72.9	6.0	16.2	0.1	2.3
公的年金受給者	人数	3504	2329	1051	124	-	-	-
	構成比	100.0	66.5	30.0	3.5	-	-	-
合計	人数	6486	2401	3226	304	482	4	69
	構成比	100.0	37.0	49.7	4.7	7.4	0.1	1.1

出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

勤労継続を希望する年齢 – 年金受給開始想定年齢に連動

- 現在働いていて、公的年金を受け取っていない2311人を対象に、いつまで働くか、いつから年金を受給するかでクロス分析したところ、65歳、70歳、75歳で1120人、全体の48.5%。そのほかの年齢も含め、また退職した翌年から年金を受給すると回答した人まで含めると、総数は1329人、同57.5%となった。年金受給を退職する年齢と連動させて考えている人が6割と多いことがわかる。

年金を受給しておらず、まだ働いている人の勤労継続希望年齢と年金受給希望年齢

(単位：人、%)

		年金受給希望年齢						
		64歳以下	65歳	66-69歳	70歳	71-74歳	75歳	
勤労継続 希望年齢	64歳以下	15(0.6%)	199(8.6%)	7(0.3%)	11(0.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	232(10.0%)
	65歳	8(0.3%)	877(37.9%)	29(1.3%)	59(2.6%)	0(0.0%)	7(0.3%)	980(42.4%)
	66-69歳	1(0.0%)	84(3.6%)	63(2.7%)	29(1.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	177(7.7%)
	70歳	7(0.3%)	388(16.8%)	25(1.1%)	220(9.5%)	1(0.0%)	14(0.6%)	655(28.3%)
	71-74歳	0(0.0%)	7(0.3%)	4(0.2%)	5(0.2%)	3(0.1%)	1(0.0%)	20(0.9%)
	75歳	0(0.0%)	72(3.1%)	15(2.3%)	52(2.3%)	0(0.0%)	23(1.0%)	162(7.0%)
	76歳以上	1(0.0%)	40(1.7%)	6(0.3%)	29(1.3%)	0(0.0%)	9(0.4%)	85(3.7%)
合計		32(1.4%)	1667(72.1%)	149(6.4%)	405(17.5%)	4(0.2%)	54(2.3%)	2311(100.0%)

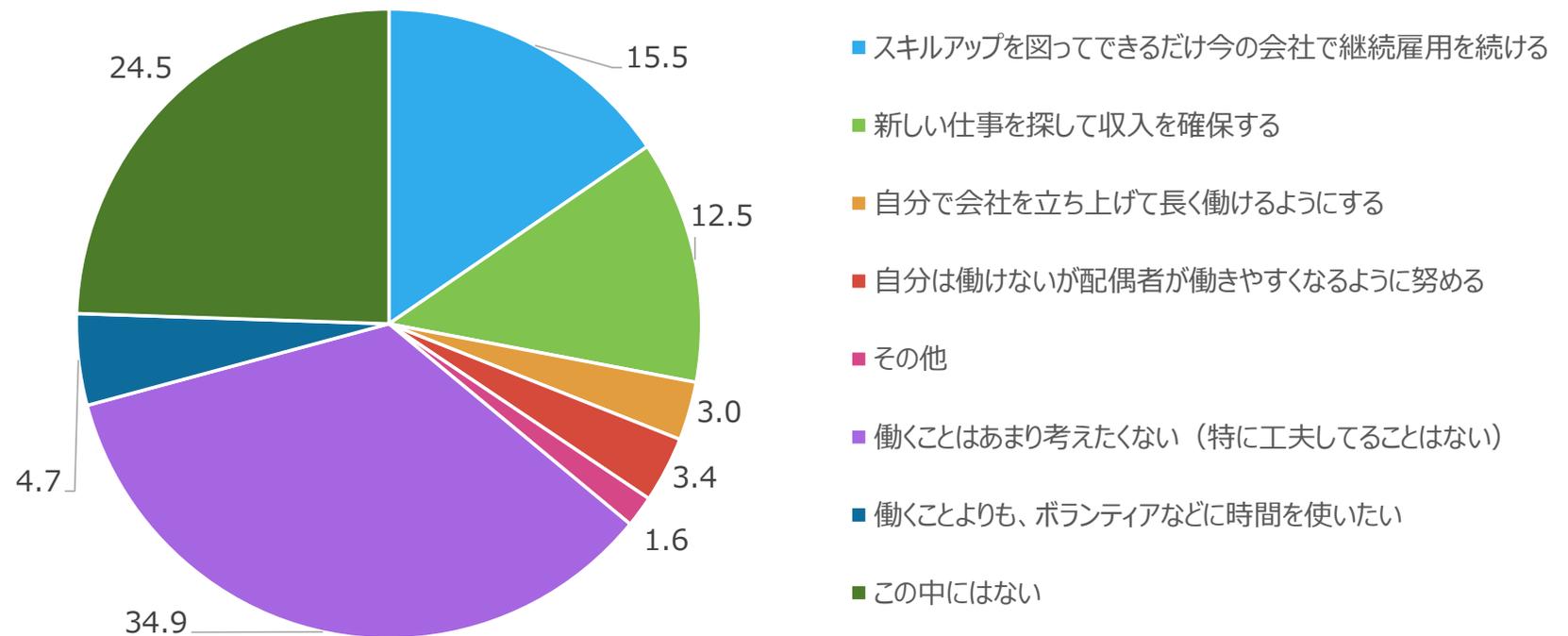
(注) 勤労継続年齢の ()の比率は、年金未受給者2982人のうち勤労収入の無い人671人を差し引いた2311人を母数として計算した。
(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

長く働くための工夫—3分の1くらいしか工夫をしていない

- 長く働くための工夫をしている人は34.4%に留まる。
- 働くことは考えたくないと回答している人が34.9%と、工夫をしている人と2分する回答となった

60代、長く働くための工夫 (n=6486)

(単位：%)



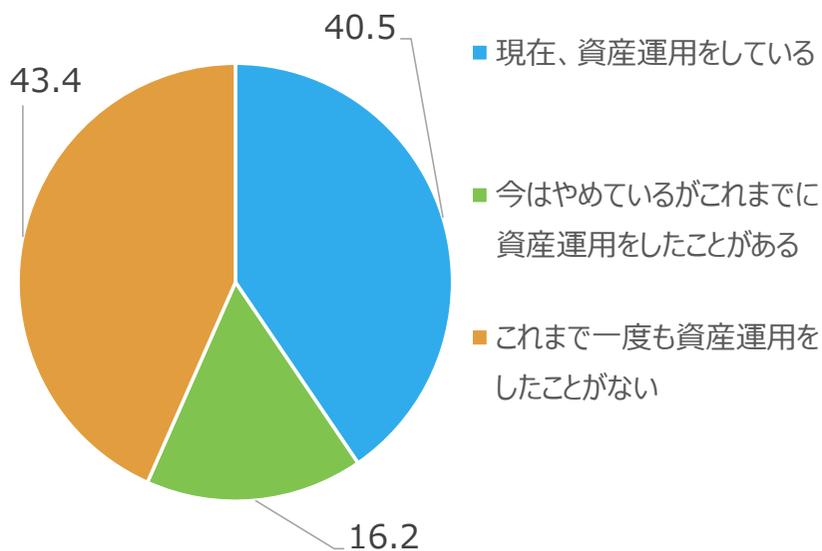
(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

All rights reserved ©FinWell Research LLC, 2022

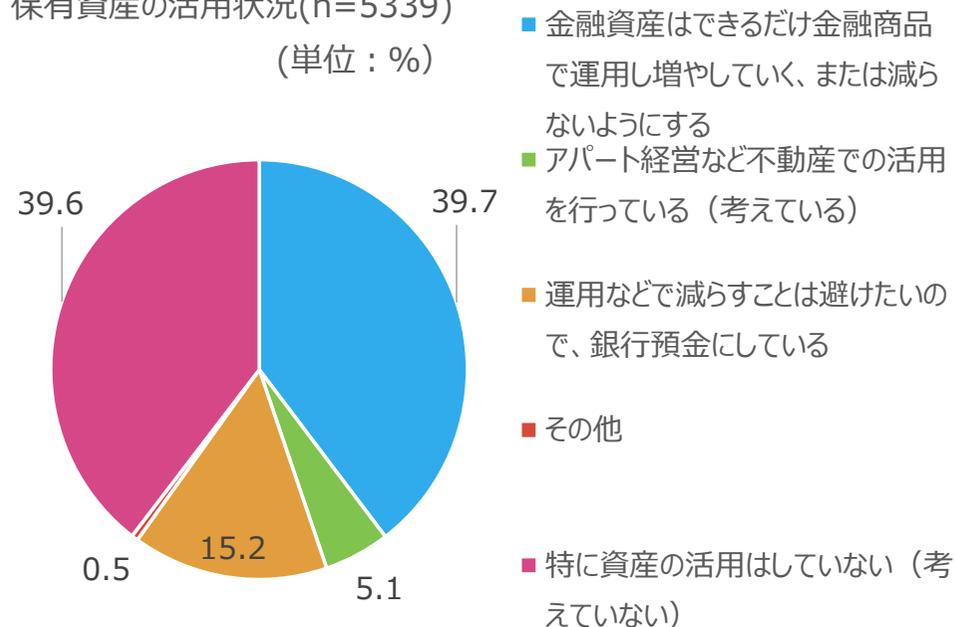
保有資産の活用状況 – 資産運用するか、何もしないかに2分

- 現在資産運用をしている人は4割、これまで資産運用をしたことがない人も4割。資産保有者5399人に、金融資産を運用で増やすと答えた人は4割、特に資産の活用はしないと回答したの人が4割。
- 資産運用をしている2625人のうち、71.0%が金融資産は運用で増やすと回答し、これまで運用したことがない1924人の売り72.8%が特に資産の活用はしないと回答した。

現在資産運用を行っているか(n=6486) (単位：%)



保有資産の活用状況(n=5339) (単位：%)



(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

60代前半は勤労収入、後半は年金収入が中心に

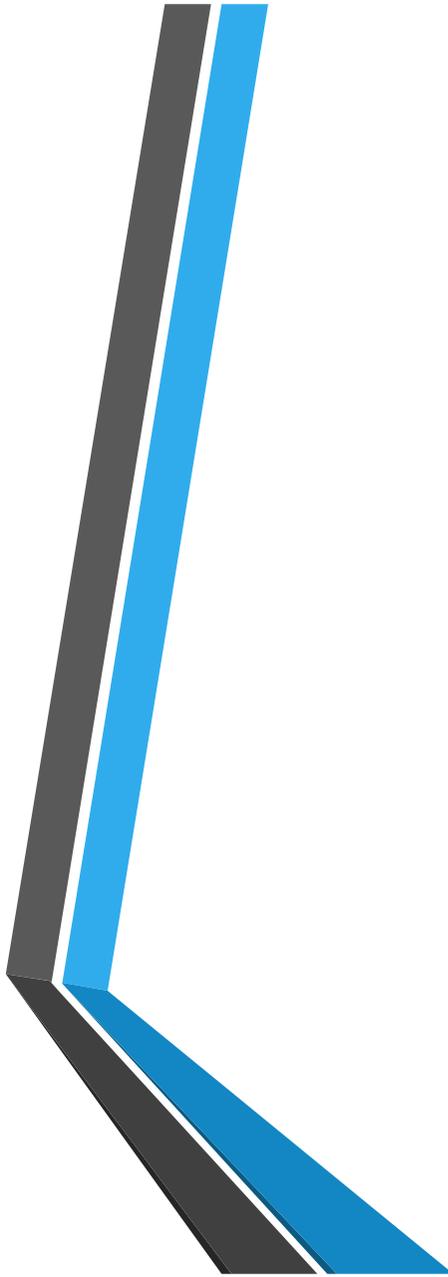
- 3つの収入を確保しているのは全体の6%強。資産収入だけは7%弱(運用していないが資産収入になる人は含めていない)。複数(3つまたは2つ)の収入がある人は全体の41.7%、1つだけの収入の人は45.4%
- 構成比の高いところをみると、60代前半では勤労収入と資産収入、後半では年金収入と資産収入。資産収入は他の収入との合わせ技になっている。

勤労収入・年金収入・資産収入の関係

(単位：人、%)

勤労	年金	資産運用	60-64歳	構成比	65-69歳	構成比	合計	構成比
○	○	○	142	3.8%	252	9.2%	394	6.1%
○	×	○	650	17.3%	72	2.6%	722	11.1%
○	×	×	944	25.2%	92	3.4%	1036	16.0%
○	○	×	195	5.2%	359	13.1%	554	8.5%
×	○	○	289	7.7%	746	27.3%	1035	16.0%
×	○	×	395	10.5%	1071	39.2%	1466	22.6%
×	×	○	403	10.7%	38	1.4%	441	6.8%
×	×	×	685	18.3%	61	2.2%	746	11.5%
合計			3752	100.0%	2734	100.0%	6486	100.0%

(注)勤労、年金、資産運用の○はそれぞれ「働いている」、「年金を受給している」、「資産運用をしている」を示す。×はそれぞれ行っていないことを示す。合計にはその他も含まれるため一致しない。資産運用を行ってなくても資産収入がある可能性もある点には留意が必要。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年



60代の生活満足度はどこからくるのか？

アンケート結果のまとめ

- 60代6000人に生活の満足度を5段階で聞くと、「ちょっと満足している」(3.17)水準に。しかし、資産水準には満足感が十分とは言えない。
- Gallupのレポート(The Five Essential Elements of Well-Being, Tom That and Jim Harter, 2010, May 4)によると、Well-beingの5要素として、Physical、Career、Social、Community、Financialを挙げている。「60代6000人の声」調査では、生活全般の満足度と、それを構成する要素として健康状態、仕事・やりがい、人間関係、資産水準の各満足度を聞いた。
- 生活全般の満足度は、その54%が残り4つの満足度で説明できた。なかでも資産水準の満足度が大きく影響している。
生活全般 = 0.165*健康状態 + 0.1952*やりがい + 0.1807*人間関係 + 0.4669*資産水準 + 0.0563
- そのほかでは、満足度へは居住する都市の推奨度は小さく、家族構成や退職していることが満足度を上げていることが分かった。

60代は生活に満足しているかーほんの少し満足している状況、でも資産水準には課題も

- 生活全般、健康状態、仕事・やりがい、人間関係、資産水準の満足度を聞くと、健康状態と人間関係では5点満点中で4点だが、仕事・やりがい、資産水準では3点が最も多い。
- 健康状態・やりがい・人間関係・資産水準を均等評価して平均点を出すと3.20点で、ほぼ生活全般の満足度数値と近似する。
- 資産水準では2点、1点の比率が相対的に高く、この改善が60代の生活全般の改善につながりそう。

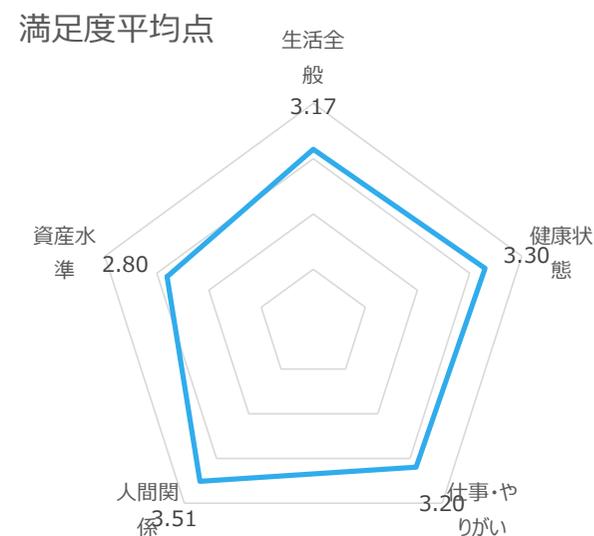
満足度調査 (60代 6486人)

満足度水準	配点	生活全般	健康状態	仕事・やりがい	人間関係	資産水準
満足できる	5	9.0%	10.6%	8.2%	12.3%	6.0%
どちらかといえば満足できる	4	36.6%	39.2%	28.0%	42.9%	21.9%
どちらともいえない	3	27.4%	26.3%	46.1%	32.4%	34.0%
どちらかといえば満足できない	2	16.0%	17.0%	10.6%	8.5%	22.5%
満足できない	1	11.0%	6.9%	7.1%	3.9%	15.6%
平均点		3.17	3.30	3.20	3.51	2.80

(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

All rights reserved ©FinWell Research LLC, 2022

(単位：%、点)



資産水準に満足度が高まれば、生活全般の満足度が上がる

- 生活全般の満足度は重回帰分析の結果、資産水準の影響を強く受けていることが分かった。健康状態、仕事・やりがい、人間関係は市況はあるがどれもそれほど強くはなかった。

回帰統計						
重相関 R	0.7336					
重決定 R2	0.5382					
補正 R2	0.5379					
標準誤差	0.7746					
観測数	6485					
分散分析表						
	自由度	変動	分散	観測された分散比	有意 F	
回帰	4	4530.43	1132.61	1887.8208	0	
残差	6480	3887.71	0.60			
合計	6484	8418.13				
	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%
切片	0.0563	0.0412	1.3655	0.1721	-0.0245	0.1371
健康状態	0.1653	0.0105	15.7005	0.0000	0.1447	0.1860
やりがい・仕事	0.1952	0.0126	15.5161	0.0000	0.1705	0.2198
人間関係	0.1807	0.0131	13.7476	0.0000	0.1549	0.2065
資産水準	0.4669	0.0098	47.6562	0.0000	0.4477	0.4861

生活全般 =
 0.165*健康状態
 +0.1952*やりがい
 +0.1807*人間関係
 +0.4669*資産水準
 +0.0563

(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

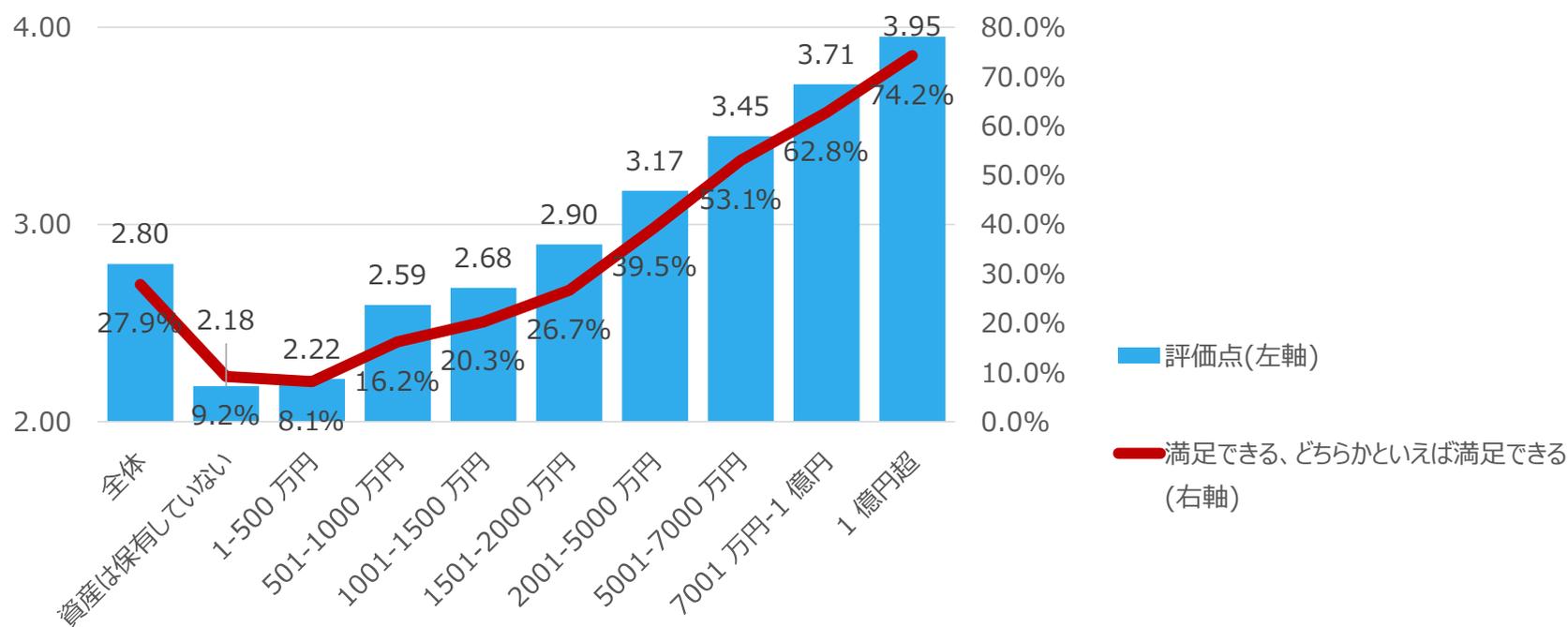
All rights reserved ©FinWell Research LLC, 2022

資産の満足度—多いほど満足度は高くなる

- 資産額が多くなるほど資産水準の満足度は高くなる。
- 「満足できる」、「どちらかといえば満足できる」と評価した人が50%を超える資産水準は5000万円超。評価点で3(どちらともいえない)を上回るのが2000万円超。

保有資産額別の資産水準満足度

(単位：点、%)



(注) 評価点 (左軸) は、資産水準に関する5段階評価で、「満足できる」(評点5)、「どちらかといえば満足できる」(評点4)、「どちらともいえない」(評点3)、「どちらかといえば満足できない」(評点2)、「満足できない」(評点1)で平均。比率 (右軸) は、上位2つの合計比率。
(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

就労状況、家族構成、資産運用も生活全般の満足度に影響

- 健康状態、やりがい・仕事、人間関係、資産水準それぞれの満足度以外には、働いていない、資産運用している、夫婦で生活しているかが、生活全般も満足度に影響している。特に就労状況の係数がマイナス（働いていない方が満足度が高い）というのは新しい気づき。

回帰統計							
重相関 R	0.7415						
重決定 R2	0.5498						
補正 R2	0.5492						
標準誤差	0.7650						
観測数	6486						
	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	
切片	-0.1941	0.0504	-3.8483	0.0001	-0.2930	-0.0952	
健康状態	0.1595	0.0104	15.2847	0.0000	0.1391	0.1800	
やりがい・仕事	0.2003	0.0127	15.8264	0.0000	0.1755	0.2251	
人間関係	0.1657	0.0131	12.6384	0.0000	0.1400	0.1913	
資産水準	0.4326	0.0101	42.7130	0.0000	0.4128	0.4525	
就労状況	-0.1155	0.0201	-5.7345	0.0000	-0.1550	-0.0760	就労している = 1, していない = 0
家族構成	0.0810	0.0173	4.6951	0.0000	0.0472	0.1148	単身 = 1, 夫婦 = 2 (その他の家族は不問)
生活費	0.0370	0.0090	4.0968	0.0000	0.0193	0.0547	年間生活費0円 = 1, 200-400万円 = 2, ・・・2000万円以上 = 8
資産運用状況	0.1397	0.0204	6.8606	0.0000	0.0998	0.1796	運用している = 1, していない = 0
居住都市の推奨度	0.0284	0.0048	5.8989	0.0000	0.0189	0.0378	是非住むべき = 10・・・やめた方がよい = 0

4つの満足度以外で係数の順に

資産運用状況 0.1397
就労状況 -0.1155
家族構成 0.0810

(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

All rights reserved ©FinWell Research LLC, 2022

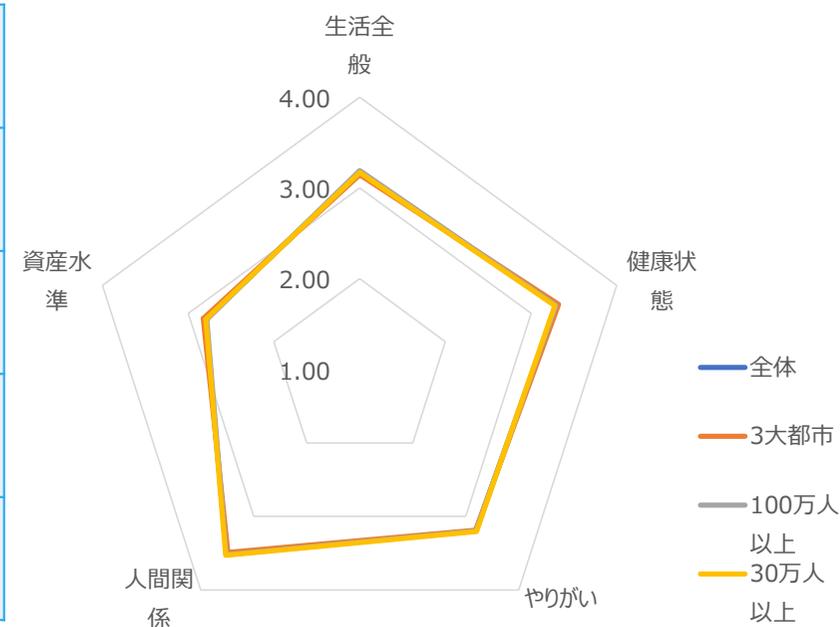
都市規模別の満足度 – 満足度は都市の規模にはほとんど関係しない

- 都市の規模で満足度を集計したが、3大都市、100万人以上都市、30万人以上都市ともにほとんど水準が変わらない。

居住する都市の規模別の満足度

	満足度	回答者数	生活全般	健康状態	仕事・やりがい	人間関係	資産水準
	全体	6486	3.17	3.30	3.20	3.51	2.80
都市の規模	3大都市	2131	3.14	3.32	3.19	3.49	2.82
	100万人以上	2175	3.19	3.29	3.20	3.52	2.78
	30万人以上	2180	3.17	3.28	3.21	3.53	2.80

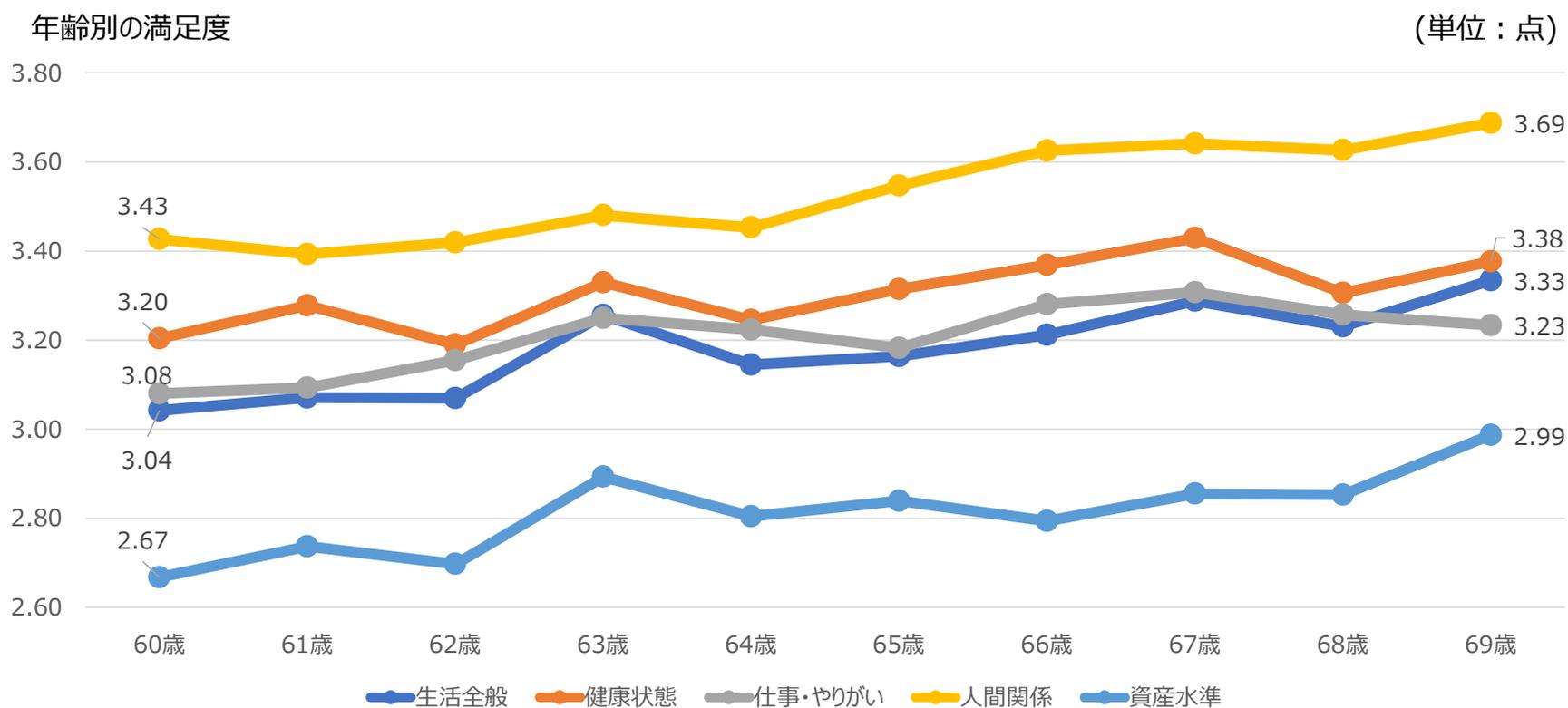
(単位：人、点)



(注)3大都市は東京・大阪・名古屋、100万人以上都市は札幌、仙台、さいたま、横浜、京都、神戸、広島、福岡、30万人以上都市は秋田、宇都宮、前橋、千葉、新潟、富山、金沢、長野、岐阜、静岡、大津、奈良、和歌山、岡山、高松、松山、高知、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、那覇。満足度は、5段階評価で、「満足できる」(5点)、「どちらかといえば満足できる」(4点)、「どちらともいえない」(3点)、「どちらかといえば満足できない」(2点)、「満足できない」(1点)で平均。
(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

年齢別の満足度 – 60代は加齢に伴い僅かながら満足度が上がる

- 年齢が上がるにつれて満足度がわずかながら上昇する傾向にある。満足度の5つの種類別にみると、どの年齢でも人間関係の満足度が最も高く、資産水準の満足度が最も低いことがわかる。



(注) 満足度は、5段階評価で、「満足できる」(5点)、「どちらかといえば満足できる」(4点)、「どちらともいえない」(3点)、「どちらかといえば満足できない」(2点)、「満足できない」(1点)の平均。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

家族構成別満足度 – 単身世帯の満足度が低い

- 単身世帯の満足度は、夫婦世帯に比べてどのカテゴリーでも低い傾向にある。
- 単身と夫婦のみを比較すると、生活全般の満足度に0.57点の大きな差異があるが、その要因は人間関係(差異0.47点)、資産水準(差異0.41)が大きい。

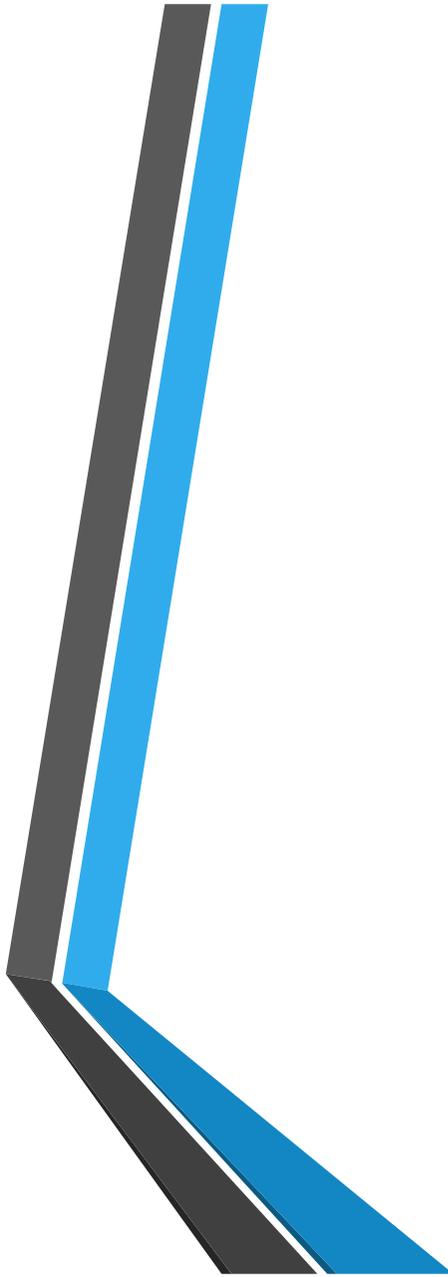
家族構成別の満足度

(単位：人、点)

	回答者数	生活全般	健康状態	仕事・やりがい	人間関係	資産水準
全体	6486	3.17	3.30	3.20	3.51	2.80
単身	1193	2.80	3.07	2.99	3.19	2.55
単身と子供	180	2.95	3.17	3.15	3.49	2.66
単身と親	250	2.92	3.12	2.96	3.35	2.69
夫婦のみ	2760	3.37	3.41	3.29	3.66	2.96
夫婦と子供	1583	3.19	3.34	3.25	3.54	2.80
夫婦と親	205	3.19	3.30	3.11	3.46	2.73
その他	315	3.00	3.10	3.14	3.45	2.60

(注)満足度は、5段階評価で、「満足できる」(5点)、「どちらかといえば満足できる」(4点)、「どちらともいえない」(3点)、「どちらかといえば満足できない」(2点)、「満足できない」(1点)で平均。

(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年



移住するにはどこが良いか？ 都市別推奨度ランキング

アンケート結果のまとめ

- 東京、大阪、名古屋に居住する人の6人に1人が地方都市への移住を考えている。その希望地ランキングは、第1位：那覇、第2位：横浜、第3位：京都と札幌が同数。
- 「現在住んでいる都市を退職後の移住先として勧めるか」を「是非住むべきだ(=10点)」から「やめた方がよい(=0)」までの11段階で評価。10-9点の構成比から6点以下の構成比を差し引いた数値で「都市の推奨度」を計算。
- 100万人以上の都市がもっともスコアが高かった。都市別には、第1位：福岡、第2位：鹿児島、第3位：金沢。上位には医療体制、公的サービス、交通の便といった「都市機能」を評価する人が多い。これは人口の多い都市(100万人以上)の特徴。30万人以上都市では、物価、食べ物、気候などの「楽しさ」が評価されている。
- 推奨度ランキングと満足度ランキングには大きな乖離があった。実際に移住するならどっちを使えばいいか？ **実際に移住をした人の良し悪しの評価基準は、「生活費の削減」ができるかどうか。それを叶えたうえで、「都市機能」を求める人は100万人以上、「楽しさ」を求める人は30万人以上のとしを候補として考えてはどうか。**

60代の移住の実像—3大都市圏では6人に1人が移住を検討

- 3大都市圏居住者の11.2%、238人が移住を検討中。既に諦めた123人を加えると17%が移住を検討している。移住を検討している人の4分の3が、60代の前半。
- 移住してきた人の割合は、100万人以上都市で10.6%(231人)、30万人以上都市で9.6%(209人)。

年齢別の移住の検討状況

(単位：人、%)

現在住んでいる都市		合計		60-64歳		65-69歳	
		回答者数(構成比)	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
全体		6486	100.0%	3752	57.8%	2734	42.2%
3大都市圏	小計	2131(100.0%)	100.0%	1280	60.1%	851	39.9%
	移住を検討中	238 (11.2%)	100.0%	175	73.5%	63	26.5%
	移住を諦めた	123 (5.8%)	100.0%	68	55.3%	55	44.7%
	移住を考えたことがない	1770 (83.1%)	100.0%	1037	58.6%	733	41.4%
100万人以上都市	小計	2175(100.0%)	100.0%	1229	56.5%	946	43.5%
	移住してきた	231 (10.6%)	100.0%	118	51.1%	113	48.9%
	移住していない	1944 (89.4%)	100.0%	1111	57.2%	833	42.8%
30万人以上都市	小計	2180(100.0%)	100.0%	1243	57.0%	937	43.0%
	移住してきた	209 (9.6%)	100.0%	114	54.5%	95	45.5%
	移住していない	1971 (90.4%)	100.0%	1129	57.3%	842	42.7%

(注)移住は過去10年。3大都市は東京・大阪・名古屋、100万人以上都市は札幌、仙台、さいたま、横浜、京都、神戸、広島、福岡、30-100万未満都市は秋田、宇都宮、前橋、千葉、新潟、富山、金沢、長野、岐阜、静岡、大津、奈良、和歌山、岡山、高松、松山、高知、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、那覇。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

移住をする理由 – 検討中は夢があるが、実際には現実的な理由が必要

- 移住をした人も検討している人も3割弱は実家へのUターンが理由。検討している人は3分の1が「住んでみたかった」という夢の実現を願い、実際に移住した人は以前に住んでいたところや生活費を意識している。

移住を検討している理由、移住をした理由

(単位：人、%)

	回答者数	自分または配偶者の実家がある	転勤で過去に住んだことがある	純粋に以前から住んでみたいと思っていたから	生活コストが低下すると想定できたから	コロナ禍の影響から地方での生活の方が良いと考えたから	その他
移住を検討中	238	27.3	7.6	36.6	16.0	8.0	4.6
移住をした人	440	27.5	15.5	14.8	14.3	3.6	24.3
(2021年)							
移住検討中	179	39.1	10.6	29.6	16.2	16.2	8.4
移住した	269	30.9	9.3	21.6	24.5	7.1	21.2

移住したその他の理由	
転職等仕事上の都合	24
離婚、結婚、家族構成の変化等	21
自宅購入・相続・実家など	19
自分・家族・親の体調の変化	11
住宅の事情(災害、老朽化など)	11
経済的理由	5
定年など	4
終の棲家として	2
その他	10

(注)移住を検討中の人は、現在3大都市圏に居住して、移住を検討中と回答した人、移住をした人は過去10年間で30万人以上の都市(3大都市を除く)に移住してきた人。2021年のデータは以前の居住都市が3大都市のみで集計しており、単純比較はできない (出所)合同会社フィンウェル研究所、60代6000人の声、2022年

移住先—移住検討先として挙がる都市は那覇、横浜、京都、札幌など

- 3大都市圏に居住する60代で、移住を検討している、または検討していた人は361人、16.9%。
- 移住先として検討する都市は、那覇市、横浜市、京都市、札幌市などの定番が多いが、そこで生活費を削減できるだろうか。

60代の移住先候補都市リスト

(単位：人)

2019年			2021年			2022年		
順位	都市名	回答者数	順位	都市名	回答者数	順位	都市名	回答者数
1	那覇	44	1	札幌	19	1	那覇	38
2	札幌	40	2	那覇	16	2	横浜	36
3	京都	34	3	京都	9	3	京都	26
4	仙台	27	4	横浜	8		札幌	26
5	横浜	26	5	松本	8	5	さいたま	17
6	福岡	22	6	仙台	8		長野	17
7	神戸	16	7	福岡	8	7	福岡	13
8	石垣	15	8	堺	7	8	神戸	11
9	安曇野	14	9	神戸	6	9	鹿児島	10
10	松本	14		石垣、長野		10	仙台	9

注)現在、東京・名古屋・大阪に住んでいて移住を検討中、または検討した人(2019年1122人、2021年401人、2022年361人)を対象に、いずれも回答者数で上位10位まで。なお、2022年は具体的な都市名を上げてそこから選択する方法を採用したため、その都市に集中する傾向が強くなった。(出所)合同会社フィンウェル研究所、60代6000人の声、2022年

都市の推奨度 – 100万人以上の都市が相対的に高い評価

- 都市の規模別推奨度では、3大都市の推奨度が相対的に低い。
- 過去10年の間に移住して生きた人と既存の居住者でみると、30万人都市では移住者の推奨度は低くなっている。

		回答者数	都市の推奨度	
			NPS	平均値
3大都市		2131	-51.8	5.95
100万人以上	合計	2175	-40.5	6.31
	既存居住者	1944	-40.3	6.30
	移住者	231	-41.1	6.41
30万人以上	合計	2180	-46.4	6.17
	既存居住者	1971	-45.8	6.19
	移住者	209	-51.7	5.93
合計		6486	-46.1	6.14

(注) 網掛けは特徴の出ているポイント。移住を勧める推奨度のNPSは、「現在住んでいる都市を退職後の生活先として他人に推奨するか」の設問に、「是非住むべきだ = 10」から「やめた方がよい = 0」までの11段階で評価し、10点と9点の合計比率から、6点以下の合計比率を引いた比率で表示。100万人以上都市は札幌、仙台、さいたま、横浜、京都、神戸、広島、福岡、30万人以上都市は秋田、宇都宮、前橋、千葉、新潟、富山、金沢、長野、岐阜、静岡、大津、奈良、和歌山、岡山、高松、松山、高知、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、那覇。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

都市別推奨度 – 福岡がダントツトップ、次いで鹿児島、金沢

- 移住するときに薦める推奨度を0から10で評価した場合のNPSスコア(10点、9点の構成比と6点以下の構成の差)でランキングすると、上位の都市では医療体制、公的サービス、交通の便といった都市の「機能」を良い点として挙げる人が多い。

都市の推奨度と居住している都市の良い点の関係

(単位：人、点、%)

現居住地	回答者数	推奨度		物価が安いこと	食べ物おいしいこと	家賃・住居費が安いこと	趣味の集まりがたくさんあること	医療体制が意外に充実していること	市役所などの公的サービスが使いやすいこと	交通の便が良いこと	気候が良いこと	海・山など環境が良いこと	大都市にいつでも出かけられる便利さ	その他
		平均	NPS											
合計	6486	6.14	-46.1	18.5%	23.0%	14.0%	5.3%	35.4%	23.1%	54.4%	28.2%	20.2%	31.5%	2.0%
福岡市	177	6.84	-19.8	18.7%	11.9%	14.3%	6.3%	41.2%	28.6%	69.5%	16.5%	7.2%	38.3%	2.3%
鹿児島市	56	6.70	-25.0	18.3%	11.9%	12.4%	6.4%	36.6%	35.1%	65.8%	13.9%	5.4%	20.8%	2.0%
金沢市	68	6.41	-30.9	27.7%	24.3%	14.6%	6.7%	44.2%	29.2%	75.3%	16.9%	0.7%	27.0%	1.1%
松山市	119	6.68	-31.1	11.3%	42.5%	16.4%	7.4%	45.9%	25.1%	58.3%	20.1%	21.6%	27.7%	0.3%
熊本市	98	6.70	-31.6	10.0%	33.6%	9.3%	5.0%	39.3%	17.9%	51.4%	44.3%	31.4%	40.0%	1.4%
静岡市	227	6.62	-33.0	14.7%	6.4%	10.8%	6.4%	28.9%	27.0%	64.2%	19.6%	2.5%	41.7%	5.9%
仙台市	140	6.51	-34.3	10.8%	9.8%	8.3%	6.0%	39.5%	26.5%	69.5%	27.4%	13.3%	48.9%	2.1%
富山市	65	6.32	-35.4	9.6%	15.4%	5.9%	4.3%	34.6%	20.2%	61.7%	16.5%	11.7%	30.9%	5.9%
那覇市	30	6.73	-36.7	10.1%	18.6%	10.5%	6.3%	40.1%	21.9%	61.2%	40.1%	44.7%	37.6%	1.7%

(注) 網掛けは平均よりも高い数値となったところ。満足度は、5段階評価。移住を勧める推奨度のNPSは、「現在住んでいる都市を退職後の生活先として他人に推奨するか」の設問に、「是非住むべきだ = 10」から「やめた方が良い = 0」までの11段階で評価し、10点と9点の合計比率から、6点以下の合計比率を引いた比率で表示。網掛けは平均よりも高い数値のところ。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

都市別推奨度と移住して良いと思った点－物価、家賃、食べ物、気候、環境推奨度は高まらない

都市の推奨度と居住している都市の良い点の関係

(単位：人、点、%)

現居住地	回答者数	推奨度		物価が安いこと	食べ物がおいしいこと	家賃・住居費が安いこと	趣味の集まりがたくさんあること	医療体制が意外に充実していること	市役所などの公的サービスが使いやすいこと	交通の便が良いこと	気候がよいこと	海・山など環境がよいこと	大都市にいつでも出かけられる便利さ	その他
		平均	NPS											
広島市	149	6.46	-36.9	11.4%	22.8%	11.4%	3.4%	28.9%	15.4%	52.3%	47.0%	36.2%	25.5%	4.7%
神戸市	237	6.44	-37.6	26.0%	56.5%	17.5%	6.2%	42.4%	24.3%	61.6%	28.2%	37.3%	39.0%	0.0%
札幌市	379	6.31	-40.1	39.1%	37.7%	24.6%	2.9%	20.3%	20.3%	13.0%	14.5%	26.1%	1.4%	2.9%
宮崎市	47	6.26	-40.4	17.1%	21.1%	21.1%	7.9%	15.8%	18.4%	23.7%	19.7%	22.4%	21.1%	1.3%
高松市	78	6.05	-42.3	38.1%	7.1%	26.2%	2.4%	45.2%	14.3%	4.8%	21.4%	19.0%	19.0%	9.5%
さいたま市	204	6.43	-42.6	17.4%	7.4%	13.0%	5.2%	28.7%	22.6%	49.1%	37.4%	10.4%	37.8%	2.2%
大津市	73	5.95	-43.8	24.2%	50.0%	18.3%	4.2%	29.2%	15.8%	34.2%	9.2%	27.5%	19.2%	0.8%
長野市	164	6.27	-44.5	23.1%	64.6%	30.8%	4.6%	24.6%	16.9%	26.2%	12.3%	46.2%	6.2%	3.1%
大分市	38	6.32	-44.7	22.1%	77.9%	19.1%	4.4%	32.4%	13.2%	35.3%	11.8%	44.1%	11.8%	2.9%
岡山市	136	6.26	-45.6	17.1%	28.7%	15.2%	3.0%	20.7%	16.5%	20.7%	27.4%	56.1%	20.1%	1.2%
横浜市	701	6.11	-45.6	28.2%	20.1%	12.6%	2.3%	32.2%	16.1%	42.0%	23.6%	25.3%	24.7%	1.7%
高知市	57	6.12	-47.4	8.8%	34.4%	9.7%	4.4%	13.2%	11.5%	30.8%	71.8%	40.5%	27.8%	0.4%

(注) 網掛けは平均よりも高い数値となったところ。満足度は、5段階評価。移住を勧める推奨度のNPSは、「現在住んでいる都市を退職後の生活先として他人に推奨するか」の設問に、「是非住むべきだ=10」から「やめた方がよい=0」までの11段階で評価し、10点と9点の合計比率から、6点以下の合計比率を引いた比率で表示。網掛けは平均よりも高い数値のところ。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

都市別推奨度と移住して良いと思った点－物価、家賃、食べ物、気候、環境推奨度は高まらない

都市の推奨度と居住している都市の良い点の関係

(単位：人、点、%)

現居住地	回答者数	推奨度		物価が安いこと	食べ物がおいしいこと	家賃・住居費が安いこと	趣味の集まりがたくさんあること	医療体制が意外に充実していること	市役所などの公的サービスが使いやすいこと	交通の便が良いこと	気候がよいこと	海・山など環境がよいこと	大都市にいつでも出かけられる便利さ	その他
		平均	NPS											
前橋市	42	5.98	-47.6	20.5%	13.7%	6.8%	1.4%	19.2%	15.1%	32.9%	26.0%	50.7%	37.0%	1.4%
京都市	188	5.91	-49.5	15.4%	5.5%	15.4%	2.2%	22.0%	9.9%	41.8%	19.8%	11.0%	47.3%	3.3%
東京都	1662	5.92	-51.1	19.7%	23.0%	16.4%	0.0%	21.3%	21.3%	14.8%	60.7%	27.9%	14.8%	0.0%
名古屋市	202	6.13	-51.5	24.3%	28.7%	18.4%	2.2%	38.2%	14.7%	33.1%	65.4%	22.8%	22.1%	2.9%
奈良市	91	6.07	-52.7	26.9%	28.2%	12.8%	2.6%	28.2%	15.4%	25.6%	59.0%	25.6%	6.4%	2.6%
岐阜市	174	6.10	-52.9	42.0%	43.7%	26.9%	4.2%	25.2%	16.0%	21.0%	72.3%	46.2%	7.6%	0.8%
秋田市	69	5.57	-53.6	8.8%	78.9%	17.5%	3.5%	21.1%	12.3%	15.8%	54.4%	64.9%	7.0%	0.0%
大阪市	267	5.99	-55.4	13.1%	37.7%	3.3%	1.6%	23.0%	4.9%	34.4%	37.7%	37.7%	6.6%	0.0%
宇都宮市	76	6.01	-57.9	38.8%	50.0%	24.5%	5.1%	43.9%	28.6%	37.8%	24.5%	28.6%	20.4%	1.0%
千葉市	230	5.62	-62.2	21.1%	60.5%	23.7%	2.6%	39.5%	23.7%	21.1%	55.3%	39.5%	13.2%	0.0%
和歌山市	61	5.87	-62.3	57.4%	48.9%	27.7%	4.3%	19.1%	4.3%	12.8%	74.5%	48.9%	2.1%	0.0%
長崎市	61	5.57	-62.3	32.1%	42.9%	19.6%	3.6%	42.9%	21.4%	44.6%	37.5%	25.0%	8.9%	0.0%
新潟市	120	5.84	-62.5	20.0%	20.0%	13.3%	6.7%	16.7%	13.3%	43.3%	73.3%	23.3%	13.3%	0.0%

(注) 網掛けは平均よりも高い数値となったところ。満足度は、5段階評価。移住を勧める推奨度のNPSは、「現在住んでいる都市を退職後の生活先として他人に推奨するか」の設問に、「是非住むべきだ = 10」から「やめた方がよい = 0」までの11段階で評価し、10点と9点の合計比率から、6点以下の合計比率を引いた比率で表示。網掛けは平均よりも高い数値のところ。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

都市の規模別満足度、推奨度 – 100万人以上の都市が相対的に高い評価

- 都市の規模別推奨度と満足度の関係をみると、推奨度では、100万人以上都市 > 30万人以上都市 > 3大都市の順となり、満足度でも100万人以上都市 > 30万人以上都市 > 3大都市の順となっている。
- ただ、それほど強い関係があるようにも思えない。

	回答者数	満足度						都市の推奨度		
		生活全般	健康状態	仕事・やりがい	人間関係	資産水準	5つの平均	NPS	平均値	
3大都市	2131	3.14	3.32	3.19	3.49	2.82	3.19	-51.8	5.95	
100万人以上	合計	2175	3.19	3.29	3.20	3.52	2.78	3.20	-40.5	6.31
	既存居住者	1944	3.19	3.29	3.21	3.53	2.79	3.20	-40.3	6.30
	移住者	231	3.15	3.31	3.06	3.42	2.74	3.14	-41.1	6.41
30万人以上	合計	2180	3.17	3.28	3.21	3.53	2.80	3.19	-46.4	6.17
	既存居住者	1971	3.17	3.29	3.22	3.54	2.79	3.20	-45.8	6.19
	移住者	209	3.12	3.14	3.07	3.43	2.82	3.12	-51.7	5.93
合計	6486	3.17	3.30	3.20	3.51	2.80	3.19	-46.1	6.14	

(注)) 網掛けは特徴の出ているポイント。満足度は、5段階評価。移住を勧める推奨度のNPSは、「現在住んでいる都市を退職後の生活先として他人に推奨するか」の設問に、「是非住むべきだ = 10」から「やめた方がよい = 0まで」の11段階で評価し、10点と9点の合計比率から、6点以下の合計比率を引いた比率で表示。100万人以上都市は札幌、仙台、さいたま、横浜、京都、神戸、広島、福岡、30万人以上都市は秋田、宇都宮、前橋、千葉、新潟、富山、金沢、長野、岐阜、静岡、大津、奈良、和歌山、岡山、高松、松山、高知、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、那覇。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

都市別の満足度ランキング – 熊本は健康、やりがい、人間関係で高い満足度

- 生活全般の満足度では、高知、宇都宮、和歌山。また平均値よりも高い満足度となった都市は13都市。
- 健康状態の満足度では、長野、鹿児島、熊本、大津。

生活全般の満足度の順位	都市名	回答者数	満足度						推奨度	
			生活全般	健康状態	仕事・やりがい	人間関係	資産水準	5つの平均値	平均	NPS
全体		6486	3.17	3.30	3.20	3.51	2.80	3.19	6.14	-46.1
1	高知市	57	3.42	3.16	3.19	3.61	2.89	3.26	6.12	-47.4
2	宇都宮市	76	3.33	3.41	3.34	3.68	3.22	3.40	6.01	-57.9
3	和歌山市	61	3.31	3.33	3.41	3.59	3.05	3.34	5.87	-62.3
4	さいたま市	204	3.29	3.27	3.24	3.58	2.93	3.26	6.43	-42.6
5	長野市	164	3.28	3.53	3.24	3.63	2.84	3.30	6.27	-44.5
6	岐阜市	174	3.27	3.32	3.25	3.58	2.84	3.25	6.10	-52.9
7	神戸市	237	3.26	3.25	3.19	3.52	2.81	3.21	6.44	-37.6
8	横浜市	701	3.25	3.36	3.23	3.53	2.85	3.25	6.11	-45.6
9	大津市	73	3.25	3.40	3.32	3.53	3.01	3.30	5.95	-43.8
10	熊本市	98	3.24	3.41	3.48	3.68	2.81	3.32	6.70	-31.6
11	静岡市	227	3.20	3.33	3.19	3.47	2.81	3.20	6.62	-33.0

(注) 網掛けは全体平均より高いところ。満足度は、5段階評価。移住を勧める推奨度のNPSは、「現在住んでいる都市を退職後の生活先として他人に推奨するか」の設問に、「是非住むべきだ = 10」から「やめた方がよい = 0」までの11段階で評価し、10点と9点の合計比率から、6点以下の合計比率を引いた比率で表示。(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

都市別の満足度ランキング – 生活全般の満足度では高知、宇都宮、和歌山が高い

- 仕事・やりがいの満足度では、熊本、那覇、和歌山。
- 人間関係の満足度では、宇都宮、熊本、鹿児島。

生活全般の満足度の順位	都市名	回答者数	満足度						推奨度	
			生活全般	健康状態	仕事・やりがい	人間関係	資産水準	5つの平均値	平均	NPS
12	鹿児島市	56	3.18	3.43	3.27	3.68	2.66	3.24	6.70	-25.0
13	奈良市	91	3.18	3.37	3.15	3.49	2.75	3.19	6.07	-52.7
14	仙台市	140	3.17	3.30	3.19	3.56	2.56	3.16	6.51	-34.3
15	東京都	1662	3.16	3.33	3.21	3.50	2.85	3.21	5.92	-51.1
16	名古屋市	202	3.16	3.27	3.09	3.36	2.82	3.14	6.13	-51.5
17	広島市	149	3.15	3.28	3.19	3.54	2.72	3.18	6.46	-36.9
18	長崎市	61	3.15	3.07	3.25	3.52	2.66	3.13	5.57	-62.3
19	新潟市	120	3.14	3.24	3.23	3.59	2.85	3.21	5.84	-62.5
20	千葉市	230	3.12	3.19	3.18	3.42	2.74	3.13	5.62	-62.2
21	札幌市	379	3.11	3.25	3.18	3.49	2.72	3.15	6.31	-40.1
22	前橋市	42	3.10	3.21	3.17	3.45	2.62	3.11	5.98	-47.6
23	京都市	188	3.09	3.17	3.14	3.46	2.73	3.12	5.91	-49.5

(注) 満足度は、5段階評価。移住を勧める推奨度のNPSは、「現在住んでいる都市を退職後の生活先として他人に推奨するか」の設問に、「是非住むべきだ = 10」から「やめた方がよい = 0まで」の11段階で評価し、10点と9点の合計比率から、6点以下の合計比率を引いた比率で表示。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

都市別の満足度ランキング – 生活全般の満足度は低くても都市の推奨度が高い都市も多い

□ 資産水準の満足度では、宇都宮、和歌山、大津。

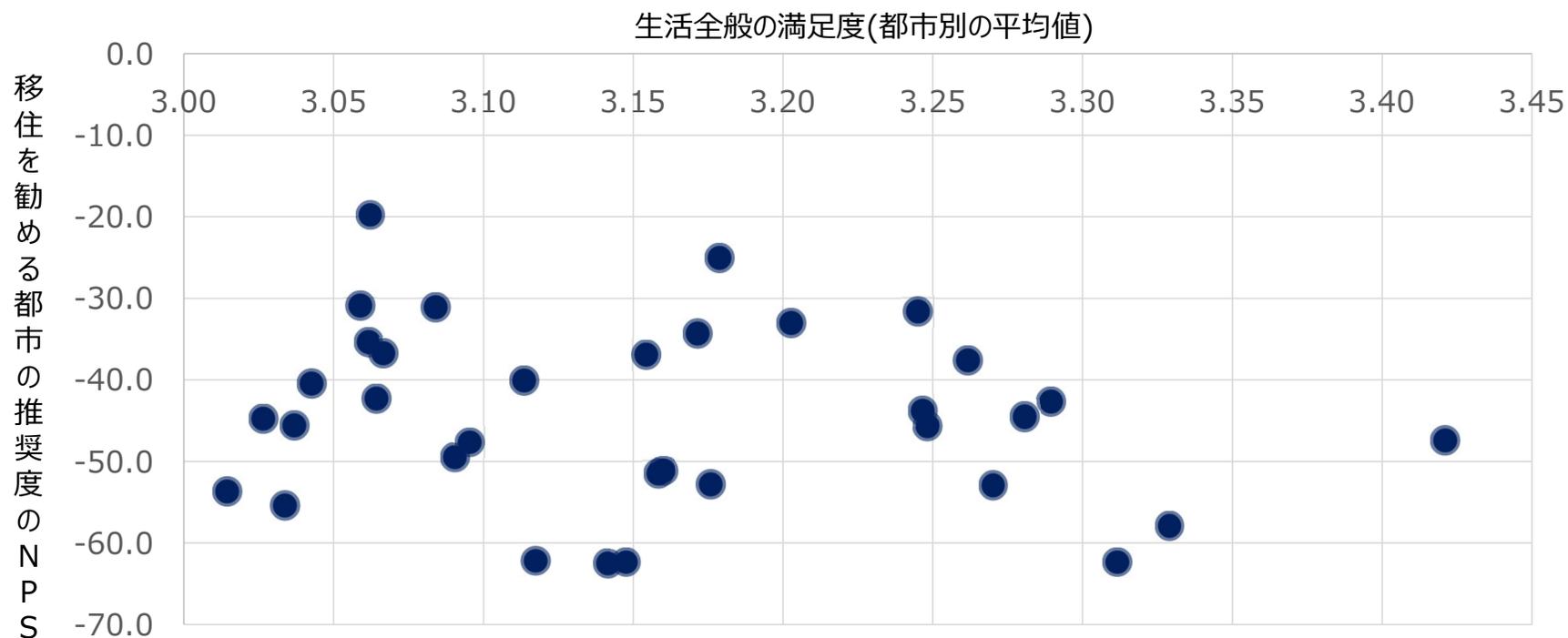
生活全般の満足度の順位	都市名	回答者数	満足度						推奨度	
			生活全般	健康状態	仕事・やりがい	人間関係	資産水準	5つの平均値	平均	NPS
24	松山市	119	3.08	3.33	3.10	3.50	2.83	3.17	6.68	-31.1
25	那覇市	30	3.07	3.07	3.43	3.47	2.80	3.17	6.73	-36.7
26	高松市	78	3.06	3.14	3.17	3.45	2.62	3.09	6.05	-42.3
27	福岡市	177	3.06	3.29	3.09	3.49	2.73	3.13	6.84	-19.8
28	富山市	65	3.06	3.11	3.15	3.38	2.74	3.09	6.32	-35.4
29	金沢市	68	3.06	3.16	3.12	3.49	2.74	3.11	6.41	-30.9
30	宮崎市	47	3.04	3.36	3.11	3.57	2.60	3.14	6.26	-40.4
31	岡山市	136	3.04	3.15	3.07	3.46	2.71	3.08	6.26	-45.6
32	大阪市	267	3.03	3.31	3.13	3.49	2.67	3.13	5.99	-55.4
33	大分市	38	3.03	2.95	2.89	3.42	2.58	2.97	6.32	-44.7
34	秋田市	69	3.01	3.09	3.03	3.46	2.67	3.05	5.57	-53.6

(注) 満足度は、5段階評価。移住を勧める推奨度のNPSは、「現在住んでいる都市を退職後の生活先として他人に推奨するか」の設問に、「是非住むべきだ = 10」から「やめた方がよい = 0」までの11段階で評価し、10点と9点の合計比率から、6点以下の合計比率を引いた比率で表示。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

都市別の生活全般の満足度と移住を勧める推奨度の関係 – 満足度は都市で決まるものではない

- 個別の都市ごとに満足度と推奨度分布図を作ってみると、2つの間に関連性が薄いことがわかる。推奨度には、満足度に加味される個別の生活に依拠する部分が含まれていないためではないか。

生活全般の満足度と移住を勧める推奨度の関係

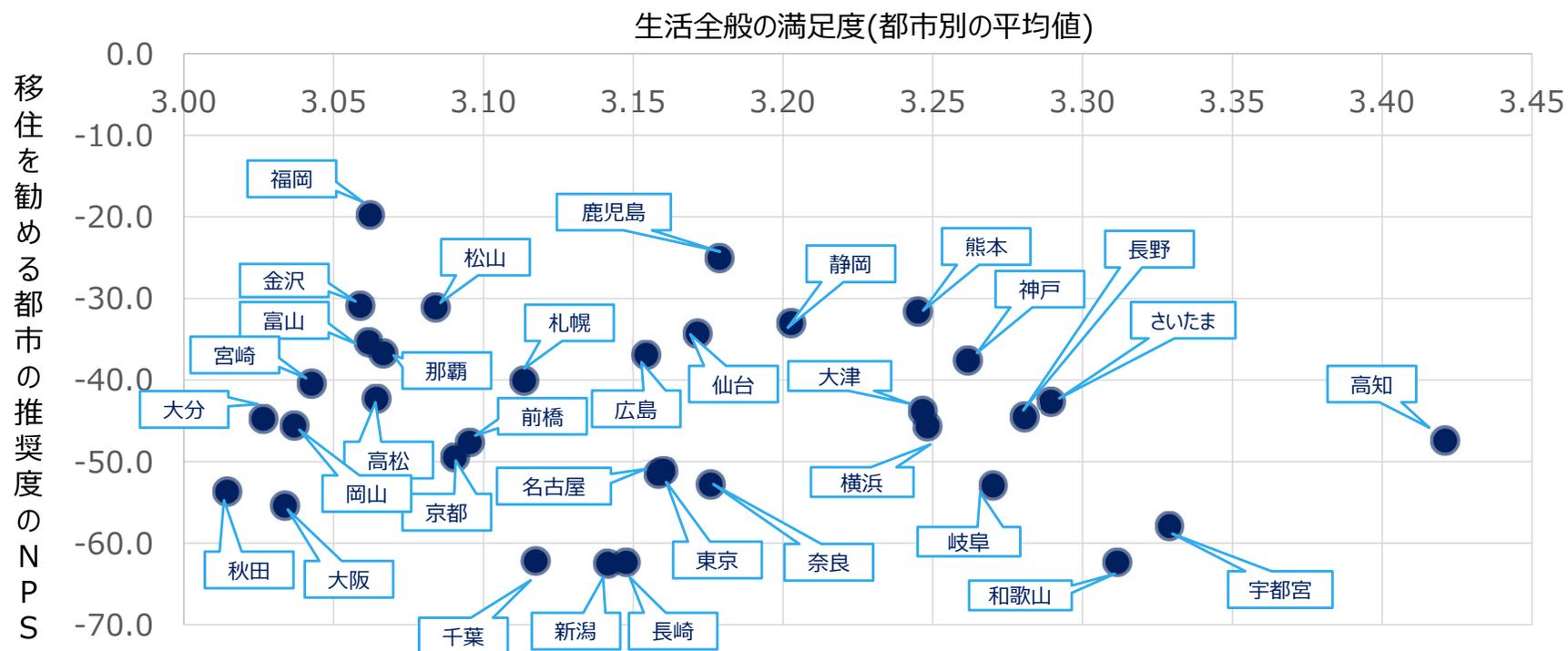


(注)満足度は、「生活全般の満足度」、移住を勧める推奨度のNPSは、「現在住んでいる都市を退職後の生活先として他人に推奨するか」の設問に、「是非住むべきだ = 10」から「やめた方が良い = 0」までの11段階で評価し、10点と9点の合計比率から、6点以下の合計比率を引いた比率で表示。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

都市別の移住を勧める推奨度の関係 – 満足度は都市で決まるものではない

- 推奨度が高い都市(マイナスの数値が小さい都市)は、福岡(-19.8)、鹿児島(-25.0)、金沢 (-30.9)、松山(-31.1)、熊本(-31.6)、静岡(-33.0)、仙台(-34.3)の順。全体の推奨度は-46.1。

生活全般の満足度と移住を勧める推奨度の関係



(注)満足度は、「生活全般の満足度」、移住を勧める推奨度のNPSは、「現在住んでいる都市を退職後の生活先として他人に推奨するか」の設問に、「是非住むべきだ= 10」から「やめた方が良い= 0まで」の11段階で評価し、10点と9点の合計比率から、6点以下の合計比率を引いた比率で表示。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

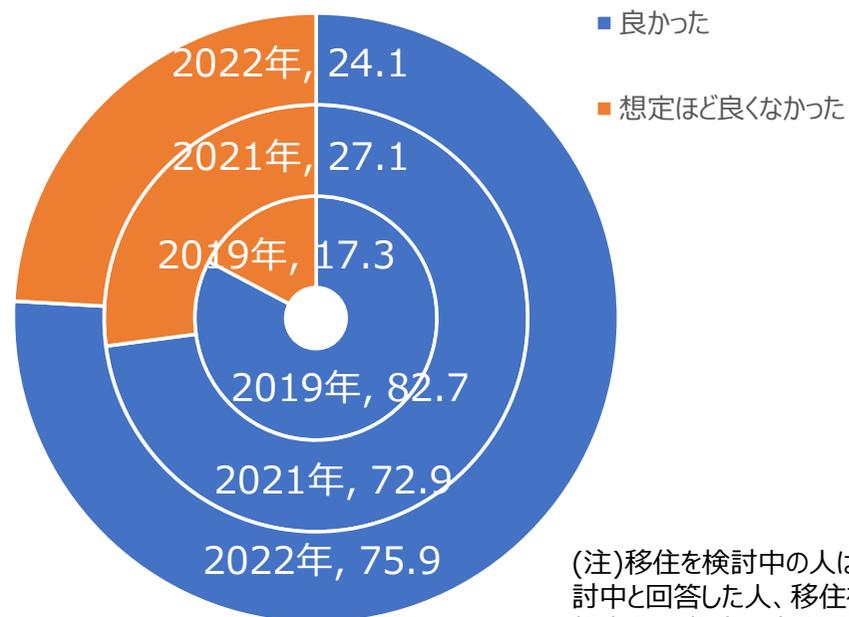
地方都市移住に対する評価 – 移住した人の4分の3が良かったと評価

□ 移住して良かったと評価する人は、過去3回のアンケートで、ほぼ75%前後に達している。

地方都市移住者の移住の評価

(単位：%)

2022年、n=440
2021年、n=269
2019年、n=306



(注)移住を検討中の人は、現在3大都市圏に居住して、移住を検討中と回答した人、移住をした人は過去10年間で30万人以上の都市(3大都市を除く)に移住してきた人
(出所)合同会社フィンウェル研究所、60代6000人の声、2022年

地方都市移住 – 生活費の削減ができるかどうかの評価のカギ

- 移住した440人のうち移住して良かったとする334人の42.8%が生活費の削減を理由に挙げ、思ったほど良くなかったとした106人のうち、42.5%が生活費の削減ができなかったことを理由に挙げた。

現在の居住地	以前の居住地	移住して良かったと評価した理由						思ったほど良くない評価した理由						
		回答者数	生活費の削減が可能になった	新しい趣味などで生活にゆとりができた	新しい人とのネットワークができた	家族・夫婦関係が良かった	その他	回答者数	思ったほど生活コストが下がらなかった	旧来のネットワークが弱くなったこと	却って外出しなくなった	医療が十分に受けられない	仕事が見つからない	その他
移住した人全体(合計440人)		334	42.8	24.6	22.5	20.4	14.7	106	42.5	25.5	26.4	6.6	11.3	11.3
人口100万人以上	3大都市	31	38.7	25.8	19.4	12.9	22.6	11	45.5	36.4	18.2	0.0	18.2	9.1
	人口100万人以上	93	44.1	22.6	17.2	22.6	9.7	25	36.0	24.0	20.0	0.0	16.0	16.0
	人口30万人以上	4	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0	1	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	上記以外の都市	55	34.5	27.3	29.1	23.6	14.5	11	27.3	36.4	27.3	9.1	18.2	0.0
	小計	183	39.9	25.1	21.3	21.3	13.1	48	37.5	31.3	22.9	2.1	16.7	10.4
人口30万人以上	3大都市	18	50.0	44.4	22.2	16.7	11.1	7	42.9	14.3	57.1	0.0	28.6	0.0
	人口100万人以上	16	37.5	25.0	43.8	31.3	25.0	6	16.7	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0
	人口30万人以上	55	52.7	18.2	16.4	20.0	12.7	24	58.3	12.5	25.0	12.5	4.2	8.3
	上記以外の都市	62	41.9	22.6	25.8	16.1	19.4	21	42.9	28.6	23.8	9.5	4.8	23.8
	小計	151	46.4	23.8	23.8	19.2	16.6	58	46.6	20.7	29.3	10.3	6.9	12.1

(注) 3大都市は東京・大阪・名古屋、100万人以上都市は札幌、仙台、さいたま、横浜、京都、神戸、広島、福岡、30-100万未満都市は秋田、宇都宮、前橋、千葉、新潟、富山、金沢、長野、岐阜、静岡、大津、奈良、和歌山、岡山、高松、松山、高知、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、那覇

(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

住んでいる都市の良い点 – 都市の規模で注目点が「機能」vs「楽しみ」・「生活費削減」に分かれる

□ 良い点の指摘では、年齢、性別に大きな違いはないが、都市の規模では3大都市と100万人以上都市では「機能」に評価ポイントがあり、30万人以上の都市では「楽しみ」と「生活費削減」に比重がある。

60代、自分の住む都市の良い点として挙げるところ

(単位：人、%)

		回答者数	良い点											
			物価が安いこと	食べ物がおいしいこと	家賃・住居費が安いこと	趣味の集まりがたくさんあること	医療体制が意外に充実していること	市役所などの公的サービスが使いやすいこと	交通の便が良いこと	気候が良いこと	海・山など環境が良いこと	大都市にいつでも出かけられる便利などところ	その他	良い点はない
全体		6486	18.5	23.0	14.0	5.3	35.4	23.1	54.4	28.2	20.2	31.5	2.0	6.9
性別	男性	4804	18.4	21.7	15.0	4.6	34.6	22.6	53.1	27.7	20.9	29.2	2.0	7.0
	女性	1682	18.6	26.9	11.1	7.1	37.9	24.4	58.2	29.7	18.0	38.2	2.0	6.6
年齢	60～64歳	3752	19.5	22.7	15.0	4.8	33.1	22.0	53.4	26.5	19.7	30.3	1.9	7.1
	65～69歳	2734	17.0	23.5	12.6	5.9	38.6	24.5	55.8	30.6	20.8	33.2	2.2	6.7
現居住都市	3大都市計	2131	19.8	13.4	14.2	6.3	41.2	29.3	69.9	16.3	6.2	35.2	2.1	6.2
	東京都	1662	18.7	11.9	14.3	6.3	41.2	28.6	69.5	16.5	7.2	38.3	2.3	5.8
	名古屋市	202	18.3	11.9	12.4	6.4	36.6	35.1	65.8	13.9	5.4	20.8	2.0	10.9
	大阪市	267	27.7	24.3	14.6	6.7	44.2	29.2	75.3	16.9	0.7	27.0	1.1	5.2
	人口100万人以上	2175	12.3	22.9	11.0	5.9	38.8	23.8	62.5	28.3	21.7	38.8	2.4	5.7
	人口30万人以上	2180	23.3	32.7	16.8	3.6	26.5	16.3	31.2	39.8	32.3	20.7	1.6	8.8

(注)網掛けは現在の居住都市で大きく特徴が出ているポイント。100万人以上都市は札幌、仙台、さいたま、横浜、京都、神戸、広島、福岡、30万人以上都市は秋田、宇都宮、前橋、千葉、新潟、富山、金沢、長野、岐阜、静岡、大津、奈良、和歌山、岡山、高松、松山、高知、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、那覇。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

住んでいる都市の課題 – 都市の規模で課題は「生活費削減」と「利便性」で違いが明確に

- 課題では、規模の大きい都市では物価と家賃への懸念が大きく、また自然環境の少なさを指摘する声が多い、30万人以上の都市では逆に交通の便に関する課題が指摘されることが多い。

60代、自分の住む都市の課題として挙げるところ

(単位：人、%)

		回答者数	課題											
			物価がそれほど安いこと	食べ物が自分たちの年代にあったものが少ないこと	家賃・住居費が意外に高いこと	若者の街という感じが強く、今一つ住みにくいところ	医療体制が十分ではないこと	市役所などの公的サービスが使いにくいこと	高齢者にとって交通機関が使いにくいこと	気候が厳しくて高齢者には住みにくいこと	自然環境が少なすぎる	長く生活するには退屈なところ	その他	特に課題はない
全体		6486	28.1	2.2	20.3	1.8	8.1	7.5	20.9	7.5	8.5	5.8	2.2	33.2
性別	男性	4804	28.1	2.4	19.5	1.8	8.2	7.5	20.6	7.1	8.7	6.1	2.2	33.0
	女性	1682	27.9	1.7	22.4	1.8	7.9	7.8	21.6	8.4	7.7	5.0	2.3	33.6
年齢	60～64歳	3752	27.8	2.2	21.7	1.8	8.5	7.7	21.4	7.4	8.5	6.2	2.2	31.5
	65～69歳	2734	28.5	2.3	18.3	1.8	7.7	7.4	20.2	7.5	8.5	5.4	2.3	35.5
現居住都市	3大都市計	2131	33.0	2.3	27.4	2.4	8.2	5.5	11.2	3.1	16.4	4.8	1.4	34.1
	東京都	1662	35.4	2.3	28.7	2.2	8.4	5.5	11.3	3.1	15.0	5.2	1.3	32.7
	名古屋市	202	21.8	2.5	15.8	1.5	6.9	2.5	10.4	3.0	13.4	5.9	2.0	47.5
	大阪市	267	26.6	2.6	27.7	4.5	7.9	7.9	10.9	2.6	27.0	1.5	1.1	32.2
	人口100万人以上	2175	30.7	1.9	21.0	1.7	6.3	7.9	13.8	8.9	6.4	4.6	2.7	35.0
	人口30万人以上	2180	20.7	2.5	12.6	1.4	9.9	9.2	37.3	10.4	2.8	8.1	2.6	30.5

(注)網掛けは特徴も出ているポイント。100万人以上都市は札幌、仙台、さいたま、横浜、京都、神戸、広島、福岡、30万人以上都市は秋田、宇都宮、前橋、千葉、新潟、富山、金沢、長野、岐阜、静岡、大津、奈良、和歌山、岡山、高松、松山、高知、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、那覇。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

重要事項

- 当該資料は信頼できる情報、データをもとに合同会社フィンウェル研究所が作成しておりますが、正確性・完全性に関して当社が保証するものではありません。
- 当該資料に記載された情報、意見は作成時点のものであり、その後の情勢の変化などによって予告なく変更することがあります。
- いずれの情報、データ、意見は将来の傾向などを保証もしくは示唆するものではありません。
- 当該資料に係る一切の権利は引用部分を除いて弊社に所属し、いかなる目的であれ当該資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断りします。

合同会社フィンウェル研究所